

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的で誰が見てもわかり易い事を念頭において職員で理念を作った。それを意識しやすいよう、目につく場所に掲示している。	開所時に職員全体で作上げた理念を家族や来所者、どなたにでも見ていただけるよう事業所内各所に掲示し、職員はその理念をもとに利用者一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、日々のサービスを実践している。	地域や利用者のニーズ、状況変化によって現状に合った事業所独自の理念を作り上げ、理念がケアに反映されていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園行事、町の敬老会行事などに誘いを受け参加している。町内会の一員としても花見、清掃などに参加している。畑、散歩、買い物などで地域の方に気軽に声を掛けてもらっている。	町内会の一員として町内の共同作業や、行事に積極的に参加し、保育園、学校行事への参加もあり、畑や散歩、買い物に出かけた時は地域の方に気軽に声をかけてもらい、事業所行事の呼びかけを回覧板で行うなど相互交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小、中学、高校生の体験学習、地域活動の受け入れを行っている。その時に、中学生を対象にサポーター養成を行っている。また、町のサポーター養成にも依頼を受けて職員が協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能と合同で行っている。家族、行政、町内会長、地区の民生委員などがメンバーに入っており、利用状況や取組状況について報告している。サービスに関する意見や要望をサービス向上に活かしている。	町担当者、町内会長、民生委員等をメンバーに家族の参加も得て事業所の取り組み状況とサービスの実際について報告されている。メンバーからいただいた意見や要望は職員で検討し、サービス向上に活かしている。	会議で出された事項についての話し合いや活かし方については、地域で一緒に考えていくうえでも、今後はより多くの利用者、家族の参加を得て、更なるサービス向上に活かしていけることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の地域ケア会議に参加し、利用状況などを定期的に報告したり、事例検討を行い情報交換している。また、日常的にも担当者と情報交換したり相談したり、「雪割草だより」を回覧している。	町が認知症支援事業に力を入れており、会議や事例検討会への参加などで学ぶ機会も多く、日常的に相談、助言、連絡等連携を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人委員会が中心になってマニュアル整備と勉強会を行い全職員に周知している。	法人全体の研修会の他、事業所内でも機会を設けて話し合わせ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな気配を感じた時はさりげなく声をかけ、安全面に配慮して見守りを行い自由な暮らしを支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会が中心に作った虐待防止の標語を毎朝、朝礼時に唱和し、意識しあうことで防止に努めている。	委員会が中心となり作成した標語を毎朝礼時に復唱し、全職員が意識し合うことで虐待防止に努めている。所長、管理者は職員のストレスが蓄積されないよう相談できる関係性が構築されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を活用している利用者を通じて制度を理解している。また、施設内で外部講師を招き勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得てサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、お客様アンケートを実施し、意見や要望の収集に取り組んでいる。結果と改善策について利用者、ご家族、運営推進会議に公表している。	年1回家族からのアンケートの他、面会時等に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。いただいた意見は運営推進会議や朝礼時の中で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務に対する意見をミーティング、部署会議、職員会議の場で話し合い反映させている。また、年2回以上所長、管理者が職員ひとりごとと面談し、個人目標や要望について話し合い運営に反映させるよう取り組んでいる。	職員会議やミーティングの他、所長、管理者は職員個々とのコミュニケーションの機会を設け、目指す目標や要望、改善点への対応について話し合うなど良好な運営体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に職員各自が個人目標を設定し、それに対し期末に自己評価と上長との面接を通じ評価するシステムがある。成果主義に基づき職場への貢献度など給与水準に反映するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画による研修、外部の研修などに参加する機会がある。事業所でも定期的に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県のグループホーム協議会、法人のグループホーム連絡会に参加し情報交換を行っている。また、法人内のグループホーム連絡会等を通じ職員同士の交換研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問、面接を実施し本人、家族から不安や要望等を聴いている。また、居宅ケアマネとの連携で情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問、面接を実施し、家族から不安や要望等を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の前には必ず包括支援センターと連絡を取り合い、情報交換しながら本人、家族が必要としている支援を見極めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は施設で借りている畑で野菜を育てたり、掃除、食事準備、洗い流し、後片付け、洗濯物干し、たたみ、買い物等その人の能力に応じて家事作業を職員と一緒にやっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスに参加してもらったり、面会時に本人の様子を伝えたり、意見、要望など聴くように努めている。また、本人、家族、職員が一緒に参加できる行事を実施している。	毎月「雪割草だより」と共に担当者が本人の日々の暮らしの様子を家族に伝えている。バスハイク、納涼祭、花壇の草取りボランティア等家族も参加してもらい、共に行うことで本人を支えていくための協力関係が築けるようになって来ている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町と協力し、地域行事や介護予防事業への参加、馴染みの理美容室の利用を継続できるよう支援している。(敬老会、「いきいきサロン」「アクション農園」等)	地域行事への参加や友人、知人の面会、馴染みの商店での買い物や行きつけの理美容院へ行くなど、今までの地域との関係性が途切れないよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介し適切な声かけや調整を行うことでほとんどの利用者がリビングで会話を楽しんだり、家事作業を分担協力して行うなど、互いに関わりあって生活している。小規模との交流もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に退居された本人に面会したり、家族からの相談に応じている。町のいきいきサロンへも参加している利用者もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスを行い、本人、家族の希望や意向をその都度確認している。また、センター方式のアセスメントシートを活用し居室担当者を中心に本人の暮らし方の希望や思いの把握に努めている。	センター方式のアセスメント表を活用し、事前情報にとらわれず本人、家族の希望や、意向の把握に努めている。カンファレンスの中でも居室担当者を中心として本人の暮らし方について、丁寧な話し合いを持ち、より本人を知る機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に先ず、本人、家族、居宅ケアマネ、医療機関などから得た情報を職員間で共有し、入居後は本人、家族、関係のあった地域の人などとの日々の関わりの中からその人の暮らしの把握に努めている。畑も借りている	本人、家族の他、関係機関から入所前の情報収集を行い職員で共有している。また、地域の人々との関わりの中からも本人のこれまでの暮らしぶりの把握に努め、利用者をより深く理解し、これからの生活に繋げるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心身の状態を観察する中で、気づいたことを日々の申し送り、ミーティングで情報共有しながらその人の暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやカンファレンスを行い、本人、家族、関係者の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、変化があればその都度見直し、修正を行っている。	本人、家族、関係機関からの情報を得て職員間で共有すると共に、地域の人々との関わりの中からも思いや意向を集約し、介護計画に反映させている。モニタリング、カンファレンスには利用者や家族の参加もいただき、状態変化が生じた場合は速やかに対応し、柔軟に計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿った記録、変化や気づきなどを毎日ケース記録、日誌などに記入し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町外の受診は基本的には家族に対応してもらっているが、状況に応じ、対応が難しい場合は職員が付き添うなど柔軟に支援している。また、入院時、退院時など支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の介護予防事業「いきいきサロン」「アクション農園」などに毎週参加している。日々の買い物や地域性をいかした足湯などに行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが、入居以前からの地域のかかりつけ医に継続して受診している。受診は職員が付き添い介助しており、困ったことがあれば相談できている。	協力医療機関を定めているが、利用者、家族の希望を尊重したかかりつけ医に受診対応している。職員が通院代行した場合は、主治医へ情報提供を行い、受診結果について家族に報告している。緊急の場合の往診体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中でとらえた個々の利用者の変化や気づきを職場内の看護師に伝えて相談し、指示に沿って適切に対応したり受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は安心して治療できるよう、また、できるだけ早期退院できるよう病棟の看護師、担当医師との情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族、病院関係者と話し合いを行い、事業所で出来ること、出来ないこと十分に説明し、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	現在は無いが直面した事例が過去に一例あった。本人、家族の意向を踏まえ協力病院と連携を図りながら、今後の方針を共有し、出来ること、出来ないことなど明確にして、可能な限り本人、家族の要望に沿ったケアを目指している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命法を受講しながら順次手技を確認している。	消防署の協力を得て救急法の勉強会は年1回実施し、全職員順次手順を確認している。事務室内には緊急時マニュアルが掲示され、迅速な対応が出来るよう周知徹底を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に従い、避難訓練を施設全体で年2回実施している。地域消防団、住民にも訓練に参加してもらい協力体制作りに取り組んでいる。	年間防災計画に従い法人施設の協力のもと、昼夜間の訓練を年2回実施している。避難場所、避難経路の確認も行なわれている。地域消防団や近隣住民の協力を得ながら実施されており協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室の扉は特別な理由のある場合を除き常に閉めて、入室時にはノックと声かけをしている。また、自尊心に配慮し、丁寧でゆったりとした声かけや対応に努めている。	利用者個々の関わりの中で、言葉遣いや目線などに配慮した姿勢や態度に努めている。行動を制限することなく本人の今やりたいことを大切に、誇りやプライバシーを損ねないように丁寧にゆったりとした声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立を立てる時に利用者の希望を聞いたり、飲み物を幾つかの種類の中から選択できるようにしている。また、レク、外出、行事など参加の希望を本人に確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切に、本人の希望に沿って過ごすことができるよう支援している。リハビリ体操、口腔ケア体操など1日の生活リズムとして日課となる活動にお誘いする時も強制にならないよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って馴染みの美容院や理容所、出張理容を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の好みや力を活かしながら、毎日の献立作り、調理、食事の盛り付け配膳、片づけなど職員と一緒にやっている。畑の野菜も活用しながら調理をしている。	食事作りや盛り付け、配膳、片付けなど、家庭の延長を活かした雰囲気職員と共にやっている。事業所の畑や、ベランダで栽培した野菜なども活用して、利用者がその日の献立表を書いてホールへ張り出すなど、力を発揮し食事が楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に管理栄養士がいるため栄養バランスや利用者個々の運動量にあわせ調整している。医師、看護師から指示が出ている場合は特に注意して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとり一人の口腔状態や本人の力にあわせ口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ひとり一人の排泄パターンを把握し排泄の自立に向けた支援を行っている。介助が必要な方には、その人に合わせた方法で実施している。基本的にオムツは使用しないようにしている。	トイレでの排泄を基本として個々の排泄パターンの把握に努め、時間を見計らいながらさりげない誘導でトイレで排泄できるよう職員全員で、自立に向けた支援と機能低下予防実践に取り組んでいる。また、トイレ入口扉も利用者に解りやすいように識別されたデザインを施した違和感のない配慮がなされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や海草類をバランスよく摂れるよう工夫した食事作りや毎日全員の水分摂取量をチェックし毎食とお茶の時間に水分をしっかり摂っていただくよう工夫や声かけを行っている。また、運動にお誘いしたり、腹部マッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は特に決まっていなため、できるだけ個々の希望に合わせて入浴していただけるよう支援している。毎晩入浴する利用者もいる。	利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。在宅時の習慣を活かし、希望する利用者には毎晩の入浴も可能で、気持ちよく入浴できる配慮がされており、浴室内での事故防止に向け、安全で快適な入浴支援を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、明るさ、掛物の調節など、ひとり一人の生活習慣やその時々状況に応じて支援している。リスクマネジメントで床対応のお客様の環境整備も過ごしやすいように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師の指示を確実に申し送り、薬の目的、用法用量について職員は理解している。また、症状の変化についても申し送り、次回の受診に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向や力に合わせ家事作業を職員、利用者が一緒に行っている。また、外出企画、買い物支援など楽しみや気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候のよい季節にはその日の希望に応じ、日常的に散歩を楽しんでいる。また、町の住民と一緒に野菜作りを楽しむアクション農園に毎週参加することを楽しみにしている利用者の支援を行っている。携帯電話を持参し自由に出かける方もおられる。	利用者の希望に応じ日常的に散歩や、外出支援を行っている。また、家族、地域の方々の協力を得て小旅行を実施し、楽しまれた思い出の写真が掲示されていた。その他、町の住民と共に野菜作りを楽しむ「アクション農園」へ毎週参加を希望する利用者の支援もあり外出の機会が多い。	本人の行きたい場所への外出支援はその人らしい暮らしを保ち、本人の意欲や自立を保つためにも大切なことであるので、安全面への配慮と見守りのもと継続されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金を所持していただいております。希望に応じて買い物の支援を行っている。管理は家族と本人で行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話の取次ぎをしている。携帯電話を所持し自由に外部交流をされるかたもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や絵、花を飾っている。また、リビングではいつでもお茶が飲めるよう道具を置いてあり、季節感や生活感を感じてもらえるようにしている。ベランダに花壇やベンチをおき、思い思いに利用されている姿をみる。	リビングの窓からは変化する山の姿に季節感が取り入れられ、明るく利用者の気持ちを和ませている。リビングには思い出の写真や絵、季節の花などが飾られ生活感に配慮された工夫がなされている。ベランダで育てられる花や野菜にも安らぎを感じ、居心地良く過ごせるような気配りがされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、食事の時以外は思い思いの場所で過ごしていただいている。利用者は日常的にユニット相互で行き来をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む荷物の量や使い方に特に制限はなく、しつらえも本人、家族の自由に任せている。掃除は毎朝、職員と一緒にやっている。	普段から使い慣れた馴染みのものや写真、思い出の品物を持参していただき、個々の利用者が落ち着いて心地よく過ごせる居場所に努めており、利用者は馴染みのものを活かしてその人らしく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札があり、自分の居室がわかり易いようにしている。、トイレ、浴室、洗濯室なども迷わないようわかり易い表示をしている。また、利用者の状態に合わせ手摺など増設している。		